

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 カタクチイワシ

学名 *Engraulis japonicus*

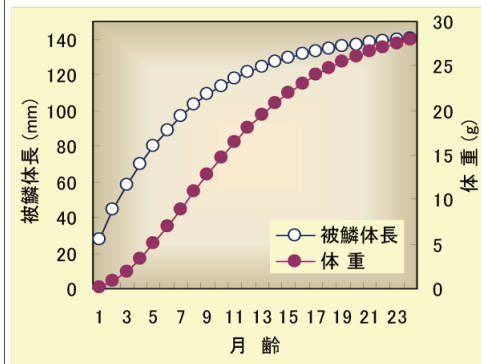
系群名 対馬暖流系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 3年
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 厳冬期を除く周年にわたり産卵する
索餌期・索餌場: 分布域のほぼ全域
食性: カイアシ類を中心とした動物プランクトン
捕食者: 大型の魚類、海産ほ乳類、海鳥類など

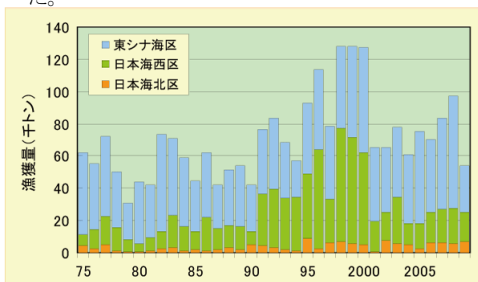


漁業の特徴

本資源は、日本海北区(石川県から新潟県)では主に定置網・敷網により漁獲され、日本海西区(山口県から福井県)では主に大中型まき網・中型まき網・定置網・敷網により漁獲されている。東シナ海区(福岡県から鹿児島県)では、主に中型まき網により漁獲される。なお、シラスは熊本県や鹿児島県の一部海域で漁獲されている。

漁獲の動向

対馬暖流系群全体をみると、1997年を除いて1996年から2000年まで10万トンを超える漁獲量があったが、その後2004年にかけて減少した。2005年以降は2008年まで再び増加したが、2009年には54千トンに減少した。対馬暖流域の沿岸域におけるシラスの漁獲量は、2002・2003年に減少し、その後やや増加したものの2008年以後は減少した。

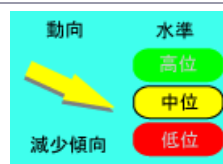


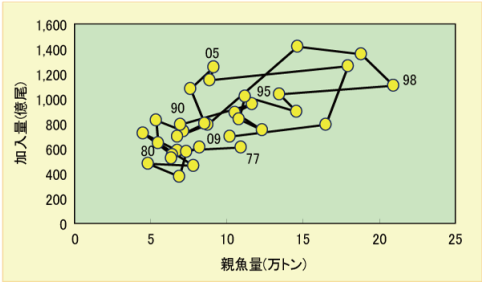
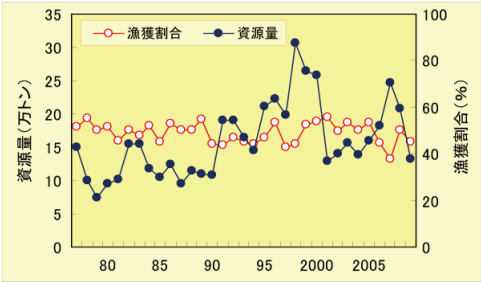
資源評価法

年別年齢別漁獲尾数に基づくコホート解析により資源量を推定した。産卵調査、計量魚探調査および新規加入量調査(ニューストーンネット)などの結果を参考とした。

資源状態

コホート解析の結果から、本系群の資源量は1990年代後半以降に変動を繰り返しており、近年では2007年に高い値を示した後、2008年および2009年は減少していた。資源水準は過去の資源量の動向から中位で、過去5年間の資源量の推移から動向は減少と判断された。2009年の親魚量は102千トンであり、再生産関係から求められるBlimit(親魚量91千トン)を超えていると推定された。





管理方策

再生産関係から、再生産成功率(RPS)と加入量の上位10%の交点をBlimitとした(親魚量91千トン)。現状はBlimit以上の親魚量(102千トン)と推定された。2010年以降の加入量を過去10年間の中央値のRPSとしたときに、Fcurrentで資源は維持されるため、Fcurrentを採用した。予防的措置は0.8Fcurrentとした。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	79千トン	Fcurrent	1.4	45%
ABCtarget	70千トン	0.8Fcurrent	1.1	40%

- Fcurrentは2009年のFで、Fは各年齢の平均
- シラスの漁獲量を含む

資源評価のまとめ

- 年齢別コホート解析を行ったところ、資源量は2001年以降2007年まで緩やかに増加していたが、2008年以降は減少した
- 過去30年以上にわたる資源量の推定結果から、資源水準は中位と判断した

管理方策のまとめ

- 再生産成功率が過去10年の中央値であれば、Fcurrentで資源は維持される

執筆者: 大下誠二、田中寛繁

資源評価は毎年更新されます。